慎重な探検、莫大な費用をかけた道路、
偉大な力

ダウトフル サウンドの ご紹介

www.realnz.com

マオリの伝説

神々が手斧で彫り上げた地形

マオリの伝説によると、この辺りのフィヨルドの地形は、海上で嵐にあった人々に避難する場所を与えるためにトゥテラキファノアという神が造り上げたということです。

トゥテラキファノアは南側から北上しながら魔法の手斧を振りかざし、岩を砕いて水路を開いていきました。

ダウトフル・サウンドには若い海の神が4人手伝いに来ました。それぞれが自分の手斧で横溝を掘ったため、アームと呼ばれる枝湾が入り組んだ複雑な地形になりました。ファースト・アームはマオリ語でタイパリ・ポト（短い）、クルックト・アームはタイパリ・ヌイ（大きい）、ホール・アームはタイパリ・ロア（長い）、ディープ・コーブはタイパリ・ティキ（小さい）と呼ばれています。

疑念の歴史

キャプテン・ジェームズ・クックは1770年に入り口近くを通りかかりましたが「ダウトフル・ハーバー」と名前をつけて去りました。それは、エンデバー号で奥へ入ったとしても出てこられるかどうか、疑わしいと考えたからでした。

その後、この決断を彼が後悔したかどうかは定かではありません。フェリペ・パウザが湾内の地図を作成したのは1793年、キャプテン・クックがハワイで亡くなってから14年後のことでした。

オットセイ猟

1800年代に入るとオットセイ猟を目的とした船乗りがニュージーランドにやってきました。猟師たちは、ダウトフル・サウンドのグロノ・ベイ (25) を拠点に、近隣のニー岩礁 (28) やシェルター諸島 (27) のコロニーへ出かけました。

ウィルモット峠を越えて

ウィルモット峠 ▲

ウィルモット峠の道路にかかった費用については諸説ありますが、1㎡あたりおよそ80ドルで、当時としてはニュージーランドで随一の高額道路でした。それでも、建設の価値はあったと言えるでしょう。

船の今昔

歴史に残る船
最新型の船

キャプテン・クックのエンデバー号

進水:

巡航速度:
全長:
定員:
装備:
脅威:

バー:

エンデバー号 ▲

リアル ジャーニーズ パテア・エクスプローラー号

進水:

巡航速度:
全長:
定員:
装備:
脅威:

バー:

パテア エクスプローラー ▲

水力発電

偉大な力

1904年、P.S. ヘイ氏はフィヨルドランドの険しい山を10kmも掘削して発電所をつくるという大胆な展望を描きました。

僻地の厳しい環境の中ではとても不可能と見えたアイデアですが、1960年代に入って、ブラフ近郊にアルミニウムの製錬所ができ、大量の電力を安定供給する必要が生じたことで転機が訪れました。

プロジェクトは困難を極め、地下とウィルモット峠で16名が命を落としました。トラックはトンネルの中では方向転換できないため、最長で7時間かけて後進しなければなりませんでした。

それでも完成にこぎ着けた マナポウリの発電所は、現在もニュージーランド最大の水力発電所として活躍しています。機械室とタービンは湖の水面より176mも低い場所にあり、年平均4800ギガワット時を発電しています。水は毎秒510立方メートルの勢いでパイプを通り、放水路トンネルを経てダウトフル・サウンドへと注いでいます。

基本データ

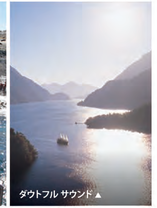
プロジェクトの規模: 所要8年、要員 1,800名
トンネル: 全長 2km、幅 9 m
タービン重量: 18 トン
放水路トンネル: 10 km

リアル・ジャーニーズの環境保護活動

ダウトフル・サウンドを守るために

美しい秘境ダウトフル・サウンドは野生動物の宝庫です。現在ではユネスコの世界遺産登録の一部ともなっていますが、このすばらしい生態系は、単に世界遺産だからという理由で守られているわけではありません。

ニュージーランド オットセイ ▲



ダウトフル サウンド ▲

ニュージーランド全国の人々が環境保護の大切さを認識し一丸となって動いたのは、マナポウリの一件が初めてだったと言われています。

今日も真摯に取り組んでいます。

ダウトフル・サウンドの
マオリ名はパテア、
この地にふさわしい
地名の意味は…

"静寂の場所"

リアル・ジャーニーズは1954年に観光業と環境保全の先駆者、レズ&オリーブ・ハッチンスが創設した家族経営の会社です。ミルフォード・サウンドとダウトフル・サウンド、ティアナウ、スチュアート島、クィーンズタウンで各種ツアーを催行しています。

国内無料 0800 65 65 01
contact@realnz.com
www.realnz.com

世界遺産

ニュージーランドにはユネスコの世界遺産登録地域が3つあります。テ・ワヒポウナム - 南西ニュージーランドはそのひとつで、ダウトフル・サウンドのあるフィヨルドランド国立公園が含まれています。

他は亜南極諸島と、北島中央部のトンガリロ国立公園で、いずれも厳正な審査のうえ、特別に保護すべき存在として認められました。風光明媚で知られるフィヨルドランドは、ゴンドワナ大陸の名残りを現代に受け継ぐ好例として、1986年に世界遺産に登録されました。さらに1990年、周辺のウエストランド国立公園、アオラキ・マウントクック国立公園、マウント・アスパイアリング国立公園に登録地域が拡大され、テ・ワヒポウナムと総称されるようになりました。

テ・ワヒポウナムの面積は260万ヘクタールを超え、ニュージーランド全土の10%を占める広大なものです。また、計10カ所の海洋保護区のうちひとつはダウトフル・サウンド内にある「ザ・ガット」と呼ばれる一帯で、テ・アワアトゥ海峡のパウザ島からセクレタリー島 (29) にかけて、豊かな潮流の影響で野生動物の宝庫となっています。面積では93ヘクタールと付近の海洋保護区では最小です。ちなみに最も大きなものは3,762ヘクタールのロング・サウンドです。

海洋保護区内はいかなる捕獲も厳禁で、碇を下ろすことも許されていません。海面下の生態系は実に豊かで、黒サンゴが多いことで知られています。そのなかには、1800年代から生息しているものもあります。

フィヨルドランドの10カ所にある海洋保護区のうち、ひとつはダウトフル・サウンド内にあります。テ・アワアトゥ海峡のパウザ島からセクレタリー島にかけての一帯が保護指定されています。

今日もまた雨が降る

この辺りは年間降水量約7000mmと地球上でも有数の雨の多い地域です。平均で年に200日以上が雨ですが、豊かな雨水を集めた滝の迫力は満点です。ニュージーランドの他の地域と同様、天候が急変しやすいため、アウトドアに出かける場合は、日帰りでも夏冬両方に対応できるような準備が必要です。

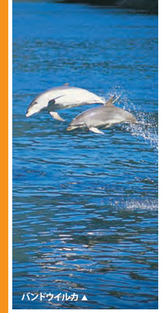
2つの世界が激突する場所

地殻変動の力はこの辺りにも働いています。フィヨルドランドの地中では、インド=オーストラリア・プレートが太平洋プレートの下に潜り込んでいます。2つのプレートの接点はアルパイン断層と呼ばれています。南島の背骨にあたるサザンアルプスはこの断層の上に位置し、地殻を押し上げる力によって形成されました。

ダウトフル・サウンド付近では、まだらのある花崗岩や濃い色のスレート、石灰岩などが見られます。地層は古く、一部は4億5000万年前まで遡ることができます。

水面下の世界

この辺りのフィヨルドの海は二層に分かれています。水面から数メートル下までは山から流れてきた淡水が溜まっていますが、それより下は海水で、性質の異なる水は混ざり合うことなく層をなしています。淡水層は森林の崩落の影響で不純物を多く含み、光が透過しにくくなっています。そのため、水深10mほどの比較的浅い場所に深海性の生物が生息するという珍しい現象が見られます。



バンドウイルカ ▲

ニュージーランド オットセイ ▲

フィヨルドランド クレステッド ペンギン ▲

野生動物

この地をすみかにする生き物

イルカ

この辺りはバンドウイルカの生息域としては南限に近く、60頭ほどの群れが確認されています。クルーズ中、船首近くに姿を現したり、時折ジャンプを見せてくれたりします。グレーと白の体はイルカの仲間では最も大柄で、敏捷に高速で泳ぎ、よく遊びます。社会性も高く、様々な音を使い分けて群れの仲間とコミュニケーションをとり、子育ても一緒に行います。

バンドウイルカ
寿命: 25年くらいまで
体長: 3.8mくらいまで
有名なイルカ: 映画の主役「フリッパー」、アメリカの軍用掃海イルカ
最高速度: 時速 30km
潜水深度: 200m まで
潜水時間: 約 7 分

オットセイ

外洋近くはニュージーランド・オットセイのすみかになっており、岩場で日向ぼっこをしたり水面をすいすいと泳いだりしている様子がよく見かけられます。雄は1年のうち繁殖期を除く10ヶ月間、雌や子から離れて過ごします。見るからにフレンドリーな印象ですが水中での動きは驚くほど迅速で、陸上にいる時や子を守ろうとする時は強い防衛本能を示します。オットセイの仲間でも特に深く長く潜れることで知られ、餌を求めてかなりの距離を移動します。

ニュージーランド オットセイ
体長: 2mくらいまで
捕食対象: イカ、タコ、魚
繁殖期: 10 月〜12 月
天敵: ジャチ、サメ、アシカ
コミュニケーション: 吠える、うなる、なく
潜水深度: 380m まで
潜水時間: 15分 まで

ペンギン

フィヨルドランド・クレステッド・ペンギンは世界でも珍しい希少種で、両目の上にくっきりとした黄色の筋が通っています。海に近い陸地に巣をつくり、繁殖期や換羽期になると、ローラ島 (19) やシェルター諸島 (27) でよく見かけられます。ブルー・ペンギン(フェアリーペンギン、リトルペンギンとも呼ばれる)も生息していますが、この世界最小のペンギンはすぐに水面下に隠れてしまうので、よく見ていないとわかりません。巣は陸地につくりますが、気に入った場所を見つけるために1.5kmほど内陸まで行くこともあります。ペンギンの繁殖期は7月から11月です。

フィヨルドランド クレステッド ペンギン
マオリ名: タワキ
体高: 70 cm くらいまで
平均寿命: 15〜20年
体重: 4 kg くらいまで

ブルー ペンギン
マオリ名: コロラ
体高: 25 cm くらいまで
平均寿命: 6 年程度
体重: 約 1 kg

復活と再生

森林の盛衰

付近の山には土がほとんどないため、樹木はむき出しの岩壁にしがみつくように根を張り巡らせ、コケや地衣類を栄養源としています。そのため、雨や雪が大量に降った後などに、木々が雪崩のように斜面を滑り落ちることがあります。斜面に残った汚れの筋は森林が崩落した痕跡です。一見、惨事のようではありますが、これも自然な過程の一部に過ぎません。

自然現象として起こる山火事が陸上の生態系の新旧交代を促すのと同じように、崩落は新たな成長の始まりでもあります。樹木が無くなった場所には地衣類やコケ類、そして低木が育ち、それを基盤に、また新しい森が再生する仕組みになっているのです。こうして新しい命が次々と大地を覆っていきます。

命あふれる森

マナポウリ湖とダウトフル・サウンドの間にはギンブナ (タファイ) の森が広がっています。ブナの森は冷涼で水分が豊富です。地面近くには無数の低木とシダ類が茂っており、王冠を想起させるクラウン・ファーンもあちこちで見られます。ウィルモット峠にはモス・ガーデンスと呼ばれる場所があり、コケ類が森の再生に果たしている役割をうかがい知ることができます。

名前の由来

スペイン語の地名

1793年、アレッサンドロ・マラスピーナ隊は正確な地図を作製するため、この水域で初の測量調査に入りました。彼は同行の水路測量士ドン・フェリペ・バウザとともに、細長いボートで奥へと進んで行きました。

完成した地図は実に精巧な出来で、絶賛されたということです。このような経緯があったため、マラスピーナ・リーチ (24)、初上陸の地となったマーカシオーネズ岬 (26) といったように、ダウトフル・サウンド内にはスペイン語由来の地名がたくさんあります。

Q フィヨルドなのにサウンド?

A: サウンドは川が氾濫してできる地形です。キャプテン・クックがダウトフル・ハーバーと名付けた入り江は、やがてオットセイ猟で往来する人々にダウトフル・サウンドと呼ばれるようになりました。実際には氷河期が終わった後に海水が入ってできた地形なので、フィヨルドとするべきなのですが、当時はそこまで分からなかったのでしょう。
結局、改名することなく、定着した地名がそのまま使われています。

ダウトフル サウンド

18. レディ アリス滝
19. ローラ島
20. コマンダー ピーク 1,274 m
21. ダナエ山 1,509 m
22. クロウフット山 1,695 m
23. エリザベス島
24. マラスピーナ リーチ
25. グロノ湾
26. マーカシオーネズ岬
27. シェルター諸島
28. ニー岩礁
29. 海洋保護区

ウィルモット峠

10. スペイ川
11. マイカ・バーン橋
12. モス ガーデンズ
13. クリーブ ガース滝 365 m
14. ウィルモット峠 展望台
15. 放水路トンネル
16. ディープ コーブ 桟橋
17. ウィルモット パス ロード 22 km

マナポウリ湖

1. パール ハーバー リアル ジャーニーズ ビジター センター
2. ハンター山 1,768 m
3. ストーニー ポイント ライト
4. ホープ アーム
5. チャネル諸島
6. ザ・ビーハイブ
7. ボモナ島
8. サウスアーム
9. ウエスト アーム 発電所